

2020年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

BLESSクラス・日本語と英語による指導	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2020年度の自己評価
	実施体制	カリキュラムや全体運営、クラス運営を適切に進める体制が取れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。 ●教育部長を中心にコーディネーターと教務主任が連携・調整を図ることで英語と日本語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。 	4 4
指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。 	4	
	授業は円滑に運営できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●一般クラス同様に1・2年生は学級担任制、3～5年生は教科担任制で学習指導を実施している。 ●日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ●第1言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。 	4 2 4	
児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ●編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、一般クラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。 	4 4	
	入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。 ●英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。 	4 3	
情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ●保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ●授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。 	4 3 1	
		<ul style="list-style-type: none"> ●英語力の向上がみられる。 ●国語や算数などの基礎学力も定着している。 	4 3	
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●6年生からのMYP開始を見据えて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。 ●外国籍教員の研修の充実 	3 4	

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

IBクラス・MYPにおける英語による指導	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2020年度の自己評価
	実施体制	プログラムやカリキュラムの管理など全体運営を適切に進める体制が取れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムディレクターを配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ●教務、カリキュラム管理では、コーディネーターやIB教務担当を配置し、教務主任と連携確認しながら運営している。 ●人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4 4 4
指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。 	4	
	学習指導要領の内容は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。 	4	
児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。 	4	
	入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●英語力が不足する生徒に対しては、早朝の英語集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に英語力が身につくよう配慮している。 ●模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。 	3 4	
	国際標準教育が提供できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒がIBプログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。 	4	
情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●年度毎のテーマに沿った説明会・講演会（IBフォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。 	3	
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBでの学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。 	3	
		<ul style="list-style-type: none"> ●将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。 	4	

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

IBクラス・DIPにおける新科目の設置	評価区分	評価項目	実施内容・状況	2020年度の自己評価
	実施体制	プログラムやカリキュラムの管理など全体運営を適切に進める体制が取れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムディレクターを配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ●教務、カリキュラム管理では、コーディネーターやIB教務担当を配置し、教務主任と連携確認しながら運営している。 ●人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4 4 4
指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。 	4	
	学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教務主任及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。 	4	
児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更の際に、配慮出来ているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●IBクラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。 	4	
情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ●授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。 	4 3	
		<ul style="list-style-type: none"> ●日本の高等学校の学習環境のもと、IBDPの学習内容をリンクさせて学習することが出来る。 ●将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。 	4 4	

玉川学園は 2006 年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を 1～12 年とし、3つの活動区分『低学年』『中学年』『高学年』を設けています。
「低学年」(1-5 年) = 小学 1～5 年、「中学年」(6-8 年) = 小学 6 年～中学 2 年、「高学年」(9-12 年) = 中学 3 年～高校 3 年

玉川学園[幼小中高]

2020 年度 玉川学園学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2020 年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

本学への要望・期待

◆K-12 教育活動の自己評価

<幼稚園>

- ・2020 年度はコロナ禍での活動となり、授業の理解度や学ぶ意識など個々の差がついた 1 年だったと思う。次年度以降、学校・家庭でフォローしていくことが必要だと思う。
- ・「全人教育」が外国籍の保護者にも理解できるよう、HP の全てのページに英訳があると学園に対しての理解がさらに深まると思う。

<低学年>

- ・緊急事態宣言下でいち早くオンライン授業に取り組み、工夫を凝らした進行や臨機応変に対応する姿勢は大いに評価できる。
- ・オンライン授業は、友達との交流や信頼関係の構築など、授業外から学ぶべき大切なことに対する穴埋めができない側面もあり、限界を感じた。今後のフォローアップに期待する。

<中学年>

- ・オンライン授業でも、通常の時間割で授業が行われた点が満足。ただ、1 日中 PC 画面を見ていて疲労が溜まるため、目を休ませる自習などの導入を検討してほしい。
- ・G Suite の導入により、コロナ禍でのオンライン活動の可能性が広がった。
- ・美化労作や丘めぐりなど、玉川らしい教育活動を充実させてほしい。
- ・父母会活動で玉川大学の学部紹介を開催しているが、中学年生を対象とした大学生や大学教員と交流できる機会を設けて、将来への意識づけをしてほしい。

<高学年>

- ・遠隔授業は緊急退避的な運用で始まったが、今後も遠隔授業の利点を活かし更に充実した学びの機会を提供してほしい。
- ・コロナ禍での遠隔授業は止むを得ないが、授業中に完全には目が行き届かず、授業以外のことに気を取られる生徒も見受けられるため、コロナ収束後は対面授業中心に戻してほしい。
- ・中間試験や期末試験の学年平均点が低い科目が見受けられる。教員のさらなるスキルアップにも力を入れてほしい。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】(回答：16 名)

適切である：62.5% 概ね適切である：37.5% やや不適切である：0% 不適切である：0%

<BLES クラス>

- ・外国籍教員に対しての研修をより充実させてほしい。
- ・児童への負担の重さなど情緒面に懸念があったが、家庭との連携が個人対応で手厚く心強い。

<IB-MYP>

- ・日本人としてのアイデンティティを保持するための日本語教育の充実度に満足。思春期の生徒に対しての寄り添ったリードも有難い。

<IB-DP>

- ・帰国子女でない生徒には負担も大きいと思うが、やる気と好奇心の火が消えない様に学園と家庭がしっかりバックアップ出来れば良いと思う。

令和3年6月1日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
玉川学園小学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
玉川学園小学部	玉川学園ウェブサイト 玉川学園の教育>学校評価 https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学部にバイリンガルクラスを設け、グローバル人材に必要な資質・能力の基礎を育てることを目標とし、「国語」「社会」等の一部教科等を除き、日本語と英語による指導を実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

玉川学園では、創立当初より世界に通用する人づくりを目指し「国際教育」を教育信条のひとつに掲げ、常に先駆的な国際教育を展開してきた。これらの取り組みを初等教育課程にも拡大し、「一貫的な国際標準教育」を実現するため。

(3) 特例の適用開始日

平成28年4月1日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (・実施している)
(・実施していない)

<特記事項>

- ・特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、小学校段階におけるグローバル人材育成のため、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果について確認できている。また、バイリンガルクラスに留まらず、一般クラスも含め、成果をふまえた教育課程や教育活動、評価方法の見直しなど、相互間で連携しながら進めていることが確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・コロナ禍をふまえ、オンラインなども活用し、取り組みの成果の発信をさらに積極的に行うこと。
- ・対面とオンラインのハイブリッドによる教育活動を意識した取り組みの更なる充実。
- ・日本語と英語で学習する「教科」の追加や見直しなど、継続したカリキュラム開発と必要に応じた教育課程特例校の変更申請。

令和3年6月1日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
玉川学園中学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
玉川学園小学部	玉川学園ウェブサイト 玉川学園の教育>学校評価 https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

中学部に配置しているIBクラス(MYP)に於いて、国語等以外の教科等について英語による指導を実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

玉川学園創立以来の教育信条のひとつである国際教育への取り組みの一環として、中学部において、国際バカロレア機構の提供するIBプログラムの規格をもって日本の学習指導要領に規定される内容事項を英語で教授することで、日本の教育制度と国際標準プログラムとが融合された「日本型国際標準化教育」を展開するため。

(3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日(平成28年4月1日より変更)

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (・実施している
 ・実施していない)

<特記事項>

- ・特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度とIBプログラムを融合した国際教育を展開するため、必要となる教職員採用・配置および教職員研修を実施するとともに、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果を継続的に確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・コロナ禍をふまえ、オンラインなども活用し、取り組みの成果の発信をさらに積極的に行うこと。
- ・小学部のバイリンガルクラスからの内部進学生が進級した際の、外部入学者との英語力のレベル差に対する配慮（入試設定や入学後のサポート体制の充実など）。
- ・外国籍教員、外国人留学生や外国籍の生徒などを含む多様性を意識した教育環境の整備。

令和3年6月1日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園高等部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
玉川学園小学部	玉川学園ウェブサイト 玉川学園の教育>学校評価 https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について、高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求める新科目を設置する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

玉川学園創立以来の教育信条のひとつである国際教育への取り組みの一環として、児童・生徒の海外校進学への期待に応えることをはじめ、国際バカロレア機構の提供するIBプログラムの規格をもって日本の学習指導要領に規定される内容事項を英語で教授することで、日本の教育制度と国際標準プログラムとが融合された「日本型国際標準化教育」を展開するため。

(3) 特例の適用開始日

平成28年4月1日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- (実施している
 実施していない)

<特記事項>

- ・特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度とIBプログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・コロナ禍をふまえ、オンラインなども活用し、取り組みの成果の発信をさらに積極的に行うこと。
- ・現在特例校として認められている以外の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求めていくことを検討。
- ・2022年度から年次進行で進む新学習指導要領の実施に伴う対応（教育課程改訂、外国籍教員への対応）。